

南河内地域 地域活性化プラン

平成 19 年 7 月策定

(平成 20 年 7 月改訂)

(平成 21 年 3 月改訂)

(平成 22 年 2 月改訂)

大阪南河内地域活性化推進協議会

1. 南河内地域における地域活性化の目標・方向性

1-1 南河内地域における地域産業の現状と課題

大阪南河内地域活性化推進協議会の担当エリア（以下「南河内地域」という）は、生駒・金剛山系を東に見て、地域のほぼ中央を石川が走り、南には「金剛生駒紀泉国定公園」を含む葛城山系を背景としており、隣接する奈良県の「遠つ飛鳥」を望む「近つ飛鳥」として、「竹内街道」を始めとする上代から近世に至る大阪府内随一の豊富な歴史観光資源を有する地域である。また大阪都心部へのアクセスも良く、大阪府東南部における良質な住宅街を擁し、大阪市内へのベッドタウン的な要素も強い。

行政主体については、北部での柏原市、羽曳野市、藤井寺市、中域の富田林市、南河内郡太子町、同河南町、大阪狭山市、南域では河内長野市、南河内郡千早赤阪村の6市2町1村の合計9団体（市町村）と細分化されており、単独での事業実施に関しても資金力等で困難を伴う傾向が強い。

南河内地域は、事業所統計で見ると、大阪府内で事業所数・従業者数とも最も少ない地域である。地域産業としては、1次産品では特に富田林市では「ナス」「きゅうり」「白菜」などは府下第一の出荷額を持ち、エリア北部（柏原市・羽曳野市・藤井寺市）ではデラウェア等4品種の「ぶどう」やワイン等の加工物産も盛んである。こうした豊富な1次産品を背景として、大阪府下に全7箇所設置されている「道の駅」のうち、その4箇所までが南河内エリア内にある。

産業全体で見ると、事業所数では①「卸売・小売業」、②「サービス業（他に分類されないもの）」、③「製造業」、従業者数では①「製造業」、②「卸売・小売業」、③「医療・福祉」が上位3位を占める。大阪府全体との比較では、「製造業」の占める割合が高いこと、また住宅街としての要素も強いことから、「医療・福祉」や、同じく住宅街の要素の強い三島地域と同様に「教育・学習支援」が従業者数第7位に入っている点も特徴の一つとなっている。

製造業では、工業統計調査結果（平成19年「大阪の工業」）をみると、南河内地域（松原市を含む）は、事業所数・従業者数・製造品出荷額のいずれも府下最少となっている。産業分類中分類の業種別では、「一般機械器具製造業」が事業所数で第2位、従業者数・製造品出荷額・粗付加価値額で第1位を占め、さらに「金属製品製造業」「プラスチック製品製造業」もこれら項

目の上位となっており、サポーター・インダストリーの集積がみられる地域である。南河内地域の「一般機械器具製造業」は一事業所当たりの従業者数が 23.6 人と、大阪府全体での同 20.2 人に比べて規模が若干大きく、大手企業の工場・研究開発センターも立地し、地域産業をリードする存在となっている。隣接する泉北地域の内陸部も機械金属の集積が特徴となっており、地域を越えた類似性もみられる。

ただ、大阪府内北部や東部と比べると、府内産業の中でも粗付加価値額の高い化学工業、電気・情報通信関連等の割合が低く、一人当たりの製造品出荷額、粗付加価値額は大阪府内最小となっており、新たな成長産業の創出が課題とされる場所である。

地場産業としては、爪楊枝・ベアリング・鉄管継手（河内長野市）、竹すだれ（河内長野市、富田林市等）、作業手袋（太子町、河南町）、ボタン・浴衣・染色等（柏原市）等が挙げられる。ただし、国内外へ技術者が移転する等の結果、ガラス加工、浴衣や作業手袋製造など、空洞化しつつあるものが多いのが現状である。

1-2 新たな地域産業創出の必要性と可能性

このような地域産業の現状から、南河内地域における新たな地域産業創出の必要性として、以下の点が挙げられる。

【南河内地域 新たな地域産業創出の必要性】

- 機械等のものづくり産業が集積し、伝統的地場産業技術もみられるが、付加価値や製造品出荷額が低く、今後の地域活性化に向けては、これらの技術を活かすとともに、地域の特性や潜在的産業資源を活かした新産業創出が必要である。
- 伝統産業技術の技術・技能承継のための新製品開発等、技術的承継を目的とした産業活性化への取り組みが必要である。

南河内地域における新たな地域産業創出にあたって、以下の可能性がみられる。

【南河内地域 新たな地域産業創出の可能性】

- 歴史文化自然、農林水産資源が大阪府内でもトップクラスに存在し、大都市近郊の立地特性を活かした体験型集客産業の可能性も期待される。
- 大阪府環境農林水産研究所食とみどり技術センターや、近畿大学医学部、大阪教育大学、大阪芸術大学、大阪府立大学看護学部など多様な分野の専門能力が潜在しており、今後の産学官連携が期待される。

1-3 南河内地域の特性・産業資源

南河内地域の特性と産業資源について、以下の通り概観した。

【南河内地域の特性と産業資源 概観】

- 機械を筆頭に、金属やプラスチック等のものづくり産業の集積が特徴となっている。地場産業としては、ベアリング等機械関連と、爪楊枝・竹すだれ等の木材加工関連、繊維・染色関連がみられる。
- 南河内地域は奈良県・和歌山県との県境で金剛山・葛城山系を擁し、ぶどう等の果実・木・水等の山に関連する特産品が豊富。また、歴史の古い地域であり、国宝・重文の仏像等や重要伝統的建造物群（富田林市寺内町）等の歴史文化資源が非常に豊富。
- これら地域資源の組み合わせや、健康等の新たな付加価値を加えた大都市近郊の立地特性を活かした体験型集客産業への期待が大きい。
- 大阪府環境農林水産研究所食とみどり技術センターや、近畿大学医学部等が立地しており、今後の産学官連携が期待される。その他研究機関として、大阪大谷大学、大阪教育大学、太成学院大学、四天王寺大学、大阪芸術大学、大阪府立大学（看護学部）等が立地している。

南河内地域資源の状況

分類	個別地域資源
<p>産業技術資源</p> <p>産業集積資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大阪唐木指物、大阪唐木銘木仏壇（柏原市） ●浴衣、浪華本染浴衣、染色、注染和晒（柏原市） ●金剛簾（富田林市、河内長野市） ●爪楊枝、鉄管継ぎ手（河内長野市） ●大阪塗仏壇、大阪仏壇（羽曳野市） ●横網ニット（大阪狭山市） ●玩具（河内長野市、羽曳野市） ●児童乗物（柏原市） ●本（富田林市、羽曳野市） ●袋物（柏原市、藤井寺市） ●紙器（柏原市） ●敷物（富田林市、河内長野市） ●むらさきもなか、修羅もなか（藤井寺市） ●ワイン（柏原市） ●天野酒（地酒、河内長野市）、地酒「松花鶴」（藤井寺市） ●毛馬きゅうり漬物、昆布（大阪全域）
<p>農林水産資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小山田の桃（河内長野市） ●大野ブドウ（大阪狭山市） ●イチジク（羽曳野市） ●ぶどう（太子町） ●えび芋、きゅうり、なす（富田林市）
<p>観光文化資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●富田林寺内町（富田林市、大阪府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定）、寺内町センター、交流館、旧杉山家住宅 ●滝谷不動明王寺、P Lの花火大会（富田林市） ●狭山池（「古事記」「日本書紀」にも登場する溜池、大阪狭山市）、大阪狭山池博物館（安藤忠雄氏設計、同市）、郷土資料館 ●河内音頭、新柏原音頭（柏原市、「河内音頭には浴衣が似合う」とアピール） ●玉手山(安福寺)横穴群、大阪夏の陣の古戦場（柏原市） ●こいのぼり祭り（大和川、柏原市） ●二上山（二上山万葉の森、太子町） ●竹内街道、東高野街道（羽曳野市） ●梅鉢御陵と竹内街道（太子町） ●金剛山、下赤阪の棚田（千早赤阪村） ●道明寺天満宮の梅園、城山古墳の花しょうぶ園（藤井寺市） ●岩湧山、延命寺、大阪府立花の文化園、金剛寺、滝畑ダム（河内長野市） ●すだれ資料館、爪楊枝資料室（河内長野市） ●天然温泉（南河内一帯） ●大阪府立近つ飛鳥博物館（安藤忠雄氏設計、河南町） ●遣唐留学生「井真成」の墓誌（藤井寺市） ●古市古墳群（羽曳野市、藤井寺市） ●大阪府の5箇所ある道の駅のうち4箇所が南河内地域に設置 ●上記以外にも歴史文化施設が豊富 太子町（町立竹内街道歴史資料館）、千早赤阪村（郷土資料館）河内長野市（市立郷土資料館、市立ふれあい考古館、滝畑民族資料館）富田林市立埋蔵文化財センター、大谷女子大学博物館、等

平成18年度『地域資源現況調査事業報告書』により把握した地域資源、及び大阪府「地域産業資源活用事業の促進に関する基本構想」により指定された地域資源を含む。

1-4 地域活性化の目標・方向性

南河内地域の特性と産業資源を踏まえて、地域資源を活かした新たな産業の創出に関する目標・方向性として、以下を取り上げる。

【南河内地域活性化の目標・方向性】

伝統産業技術と歴史文化資源を活かした 大都市近郊体験型拠点創出による地域活性化

- 地域産業資源の観点から南河内地域を見ると、ぶどう等の果実や水等に関連した豊富な農林水産資源や、国宝・重文の仏像等や重要伝統的建造物群などの主として上代の貴重な歴史文化資源、さらには多くの伝統産業技術など大阪府下有数の豊富な地域産業資源を保有している。また大阪府都心部から至便の大都市近郊立地であると同時に、奈良・和歌山など同様に豊富な地域資源を持つ地域とも隣接しており、国道170号線・南阪奈道から阪和自動車道へと連続する関西国際空港とのアクセスなど、国内外の集客に必要な基本要件をクリアした立地特性をもっており、この点も重要な地域資源と位置づけることが可能である。これらの諸点を踏まえ、地域の伝統産業技術と歴史文化資源、ならびに豊富な農林水産資源を十分に活かすことを前提とし、健康・自然回帰、体験学習等の今日的視点を基本とした新たな大都市近郊型の集客産業拠点の創出と特産品開発等を重点的に進めたい。

2. 地域資源を活かした新しい事業の創出方策

2-1 地域資源の活用イメージ

地域の特性や地理的条件、豊富な産業資源や活用可能性が期待される地域の大学・研究機関の立地状況等から、南河内地域における地域資源の活用イメージとして、昨年に引き続き以下を挙げる。なお、これらは平成19年度時点での地域資源活用イメージであり、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

【南河内地域ブロック 地域資源の活用イメージ】

- ①地場産業の技術・製品を活用した事業
- ②観光文化資源を活用したものづくりやまちづくりに関連する事業
- ③農林水産資源を活用した事業
- ④地域の産学官連携による事業
- ⑤上記組み合わせにより、地域ブランド力の形成を図る事業

2-2 重点的に支援すべき事業分野

平成 18 年度調査『地域資源現況調査事業』や、ヒアリング等で明らかになった地域資源に基づき、1-4 に記載した地域活性化の目標・方向性、今後の地域ブランド形成に資するとみられる代表的な地域資源を、重点的に支援すべき地域資源として、以下を抽出した。また、これら資源の担い手、支援者として期待される資源、今後の発掘や活用が期待される地域資源も併せて抽出・記載した。

なお、これらも先に挙げた地域資源活用イメージと同様に、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

【南河内地域ブロック 重点的に支援すべき地域資源等】

分類	地域資源など	
重点的に支援すべき代表的地域資源	伝統的地場産業技術	爪楊枝、すだれ、地酒、もなか、浴衣等
	農林水産資源・景観	ぶどう、ワイン、いちじく、みかん 棚田の景観、金剛山系の豊かな自然
	歴史文化資源・街並み	富田林寺内町、狭山池、仏像、寺社、 古墳、聖徳太子ゆかりの歴史等
担い手としての地域資源	オンリーワン性の高い中堅中小企業、老舗 異業種企業グループ まちづくり関連のNPO、地元まちづくりグループ	
支援側としての地域資源	商工会、市役所 地元歴史家 府環境農林水産研究所食とみどり技術センター（羽曳野市に立地） 近畿大学（医学部・東洋医学研究所等、大阪狭山市に立地） 大阪芸術大学、大阪教育大学等の研究機関	

今後の発掘や活用が期待される地域資源	地域一帯となった集客産業開発 産学連携による農林水産資源活用（健康医療関連）
--------------------	---

2-3 事業創出に向けた具体的方策

南河内地域では、後述する地域活性化推進協議会を中心に、地域資源を活用した新事業創出に向けて、主に以下の方策等によって取り組むものとする。

- 地域資源活用産業や南河内の地域資源に関連する広報普及活動
- おおさか地域創造ファンドや国の制度等に関する説明会開催
- マーケティングや地域ブランドの専門家等によるセミナー・相談会開催
- 地域活性化コーディネーター等による地域資源、担い手等の発掘調査
- 地元のNPOやまちづくグループ等との連携による事業シーズ発掘
- 地域の研究機関・大学との産学連携促進に向けたニーズ・シーズマッチングの促進 等

3. 地域活性化の推進体制の構築

3-1 地域活性化推進協議会の設置・運営

南河内地域では関係市町村、商工会、学識経験者を構成員とする「大阪南河内地域活性化推進協議会」を平成19年5月11日に設置し、ファンド助成対象事業の選定及び支援の実施主体とする。

同協議会は、大阪府商工会連合会が事務局を担い、運営にあたるものとし、同連合会に地域活性化コーディネーターを配置し、地域活性化プランの推進をはじめ、ファンド事業全般を推進する専門人材として位置付け、これら業務にあたるものとする。

【大阪南河内地域活性化推進協議会 構成メンバー】

- ・ 柏原市、同商工会
- ・ 河内長野市、同商工会
- ・ 藤井寺市、同商工会
- ・ 富田林市、同商工会
- ・ 南河内郡河南町、太子町、千早赤阪村
- ・ 羽曳野市、同商工会
- ・ 大阪狭山市、同商工会
- ・ 太成学院大学 経営学部教授

- ・大阪教育大学 教育学部情報科学講座准教授
- ・観光ジャーナリスト（元近畿大学経営学部教授）
- ・株式会社日本政策金融公庫 阿倍野支店
- ・南河内地域活性化コーディネーター

【大阪南河内地域活性化推進協議会 事務局】

- ・大阪府商工会連合会

また、助成対象事業の選定は公募によるものとし、選定に際しては、外部有識者等で構成する助成事業選定委員会を設置するものとする。

【南河内地域助成事業選定委員会 構成メンバー】

- ・太成学院大学 経営学部教授（委員長）
- ・大阪教育大学 教育学部情報科学講座准教授
- ・観光ジャーナリスト（元近畿大学経営学部教授）
富田林商工会 事務局長
- ・株式会社日本政策金融公庫 阿倍野支店

3-2 支援機関・関係団体の役割

ファンド事業を効果的に推進し、地域活性化に資するため、「大阪南河内地域活性化推進協議会」を構成する支援機関・関係団体・構成員のみならず、大阪府・市町村・商工会・府立産業技術総合研究所、金融機関等の機関・団体、関係職員をはじめ、地域力連携拠点（南河内地域）、府立産業開発研究所研究員、財団法人大阪産業振興機構、等の知識・経験・技術・ノウハウを結集して推進していくものとする。

【南河内地域において、特に連携を期待する関係機関等】

- ・大阪府環境農林水産研究所食とみどり技術センター
（主に農林水産資源に関する研究開発面の指導、産学官連携）
- ・近畿大学医学部東洋医学研究所
（主に農林水産資源に関する研究開発面の指導、産学連携）
- ・地元歴史家グループ等
（主に観光文化資源に関する発掘支援） 等

4. 助成対象事業の選定・支援

下記 4-1～3 の内容については、南河内地域支援事業助成金交付要綱による。

- 4-1 助成対象事業の要件
- 4-2 助成限度額、助成率
- 4-3 事業選定方法(選定基準、選定委員会等)

5. 事業目標の設定と評価

5-1 事業目標の設定

(1) 事業目標

おおさか地域創造ファンドによる支援事業計画に掲げる事業成果に係る目標に準じて、事業実施期間(10年間)終了後の成果目標として、おおむね以下の通り設定する。

- ①支援事業(プロジェクト)件数
おおむね40~50件(単年度あたり4~5件)
- ②支援事業(プロジェクト)の参加企業数
おおむね80~100社(単年度あたり8~10社)
- ③支援事業のうち中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を得た数
おおむね20~30件(単年度あたり2~3件)

5-2 事業評価の方法と体制

上記事業目標の達成状況については、「大阪南河内地域活性化推進協議会」において評価を行うとともに、財団法人大阪産業振興機構に設置する「おおさか地域創造ファンド事業審査委員会」において、毎年度、評価を受けるものとする。

以上

【改訂等履歴】

平成19年7月19日策定
平成20年7月3日改訂
平成21年3月17日改訂
平成22年2月1日改訂